

大分合同新聞

2020年(令和2年)5月11日(月曜日)



辛島正庵の墓前で祈とうをする参列者ら＝中津市寺町の大法寺

天然痘の研究に尽力

辛島正庵の菩提寺
「疫病退散」を祈念

【中津】新型コロナウイルス感染症の終息を願い、中津市寺町の大法寺(太田全士住職)で6日、祈とうがあった。天然痘の種痘(ワクチン)の研究に尽力した江戸時代後期の中津藩医、辛島正庵(1779～1857年)の菩提寺。その遺徳にあやかうと、集まった市民12人が手を合わせた。

天然痘は、かつて世界各地で猛威を振るったウイルス性伝染病。種痘が普及し、

1980年5月にはWHO(世界保健機関)が根絶宣言した。長男を天然痘で亡くした正庵が研究に励み、中津で種痘治療を普及させたという。

祈とうは、市内で飲食店「朱華」を営む今吉真由美さん(47)が催した。店で販売する弁当に祈とうしたお札を付けて販売するため、寺に依頼。正庵の子孫で、市内中央町の医師、辛島篤志さん(59)夫婦も参列した。正庵の墓前にお札約200枚を供え、太田住職(76)が、「疫病退散」「新型コロナウイルス退散」などと祈念した。

今吉さんは「中津の偉人、正庵さんの力を借り、ウイルスを吹き飛ばしたい」と話した。

(吉田美佳)